

広 報

# ふじがわ

### 町のメモ

昭和57年7月1日現在	
人口	16,955人
増減	-5人
男	8,387人
女	8,568人
世帯数	4,320世帯
面積	31.09km <sup>2</sup>

富士川町 企画開発課

7月号

昭和57年7月20日発行

No. 252



## 夏は水遊びが一番さ

(表紙の言葉は2ページに)

町の今年の目標  
「笑顔であいさつ明るい町に」

# 一・小・一中の校舎耐震補強工事や

## 中野遺跡発掘調査費を主体に

### 7,830万円を補正

町議会の6月定例会は、6月17日(木)午前9時から議場で開催され、常葉町長の再選による初心表明や一般行政報告を皮切りに、昭和57年度一般会計補正予算、昭和56年度一般会計・国民健康保健特別会計補正予算、町議会会議規則・町議会委員会条例・町議会傍聴人取締規則の制定など十三議案が審議され翌18日(金)の本会議最終日には、すべて原案どおり可決されました。

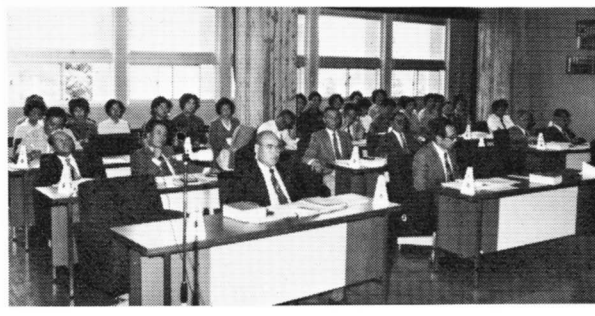
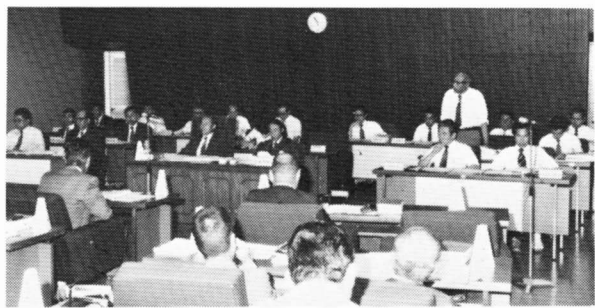
## 一般行政報告

◎共立蒲原総合病院の進捗状況は全体で二九・四割  
病院の諸問題については、平素からみなさんのご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

◎中野企業局の宅地分譲事業は面積で九三割・人数で九二割  
地主のみなさんのご協力によりおかげさまで5月末現在、面積で九三割・人数で九二割の進捗となりました。残された人数は十二人

◎国一・富士川橋の早期梁替えに努力  
富士川橋の橋梁補修事業は、本年度一億三千四百万円の予算化がされており、橋梁部分の補修や根固工を実施すると聞いています。

◎昭和三十九年度一般会計の出納閉鎖状況は  
昭和三十九年度の予算執行については、5月31日をもって出納閉鎖しましたが、一般会計においては決算見込額が、歳入二十六億三千三百七十一万二千七百二十三円、歳出二十四億八千四百二十二万二千七百五十九万六千五百五十九円となっています。



七十九万円を計上し、当町予算にも九百四十七万円を計上しました。最近の臨時行政調査会などの方向から厚生省が隔離病舎の整理統合を打ち出してきました。このため、国庫補助金についても見通しが立たない状態になってしまつたわけですが、また、本県でも二十五カ所・七百三十二床に対して、昭和55年が五十四人、昭和56年が七十七人の患者数であり、厚生省の方針を受けて東・中・西に各一カ所ぐらゐに統合していきたいというビジョンが、過日、町村長研修会の席上、県衛生部長から示されました。そこで、三町長が協議し

た結果とりあえず設計を中止させ、富士市、清水市または静岡市への委託について県に仲介をお願いし、現在話し合いを進めています。

◎広域基幹農道計画に積極的に取り組む  
静岡地区の低迷する農業経営を抜本的に改善するため、農業生産物の流通体系や土地の効率的開発整備などを目的に構想したもので、現在計画中の「岩淵農免」と連結し、清水市興津の国道五二号線までを計画の第一段階とする庵原三町と清水市の広域的な計画であることは、3月議会で表明した

昭和57年度の一般会計補正予算は、校舎耐震補強工事、中野遺跡発掘調査費、消防車庫用地購入費、公共上町一山線追加工事、野田山間伐作業道開設工事などを中心に七千八百三十万円を補正、これに要する経費には県補助金や繰越金などを充当し、予算総額は二十五億四千三百万円となります。

なお、一般行政報告と昭和57年度一般会計補正予算の内容は、次のとおりです。

◎昭和三十九年度一般会計の出納閉鎖状況は  
昭和三十九年度の予算執行については、5月31日をもって出納閉鎖しましたが、一般会計においては決算見込額が、歳入二十六億三千三百七十一万二千七百二十三円、歳出二十四億八千四百二十二万二千七百五十九万六千五百五十九円となっています。

◎昭和三十九年度一般会計の出納閉鎖状況は  
昭和三十九年度の予算執行については、5月31日をもって出納閉鎖しましたが、一般会計においては決算見込額が、歳入二十六億三千三百七十一万二千七百二十三円、歳出二十四億八千四百二十二万二千七百五十九万六千五百五十九円となっています。

## 一般会計の補正内容

◆庁舎保安警備委託へ 二百十六万円

◆東名ボックス内照明灯、日の出水銀灯設置工事、富士川町管轄輪場設置工事・舗装工事へ 百五十万円

◆老人福祉センター浄化槽補修工事へ 百六十三万円

◆農林水産業費に 八百三十八万円

◆富士川一蒲原線農免農道調査委託料へ 二百八十八万円

◆野田山間伐作業道開設工事へ 四百五十万円

◆公共上町一山線改良工事追加分へ 七百万円

◆第一小学校校舎耐震補強工事へ 一千八百三十三万円

◆第一中学校校舎耐震補強工事へ 三百五十万円

◆中野遺跡発掘調査費へ 三千五十八万円

## 暑紙のふは

7月10日、町立第一小学校の小プールを訪ねると、第一幼稚園のチビツ子たちでいっぱい。水しぶきをあげ電車ごっこをする子ども、プールのわきで甲ら干しをする子ども——どの顔も輝いて生き生きしていた。

ところでチビツ子たち、泳ぐ前には少なくとも五分はかけて準備体操をしよう。準備体操は自分の体調を知る一つの目安になるから「どうも体調が悪いな」と感じたなら無理をせず、しばらく休むことだよ。準備体操の目的は、関節をはじめ体全体を柔らかくするとともに、内臓機関の働きを高め「さあ、これから水に入るぞ」という心の準備をすることだからさ。心の準備ができていないと体の機能が、水の中という環境の変化についていけず、心臓マヒなどの事故を起こす原因にもなるんだ。また、水に入る前には、シャワーがあればたつぷり浴び、海などでは足、手、顔、頭といった順序で、心臓に遠いところから水につかる。

## 職員の変動

◆課長 (7月1日付)

- ◆課長 (7月1日付)
  - 管理検査課事務取扱 常盤 登
  - 建設課 望月 定一
  - 企画開発課 清 泰二
  - 水道課 林 勝
  - 郡環境衛生組合事務局長 齊藤 博
  - 水道課参事 谷津倉章夫
  - 総務課付参事 久保田安男
  - 建設課付技監 加藤 勲
  - 教育課長・学校給食センター所長 丸山 博康
  - 議事事務局局長 太田 国弘
  - 務取扱参事 野口 正義
  - 環境衛生課参事 村野 幸三
  - ◆主幹
    - 教育課 小沢 勝己
    - ◆主査
      - 経済課 入沢 隆枝
      - 税務課 清 喜久江
      - 管理検査課 佐野百合子
      - ◆主事
        - 郡環境衛生組合 平川 捷臣
        - 環境衛生課 藤谷 義行
        - 民生課 大石 博一
        - 企画開発課 稲葉 準一
        - 建設課 木伏 和子
        - 教育課 浦田 勝広
        - ◆主事補
          - 民生課 芦川 和敏
          - ◆新採用
            - 公民館・図書館長 平田 廣胤

今月のテーマ

広報デイスカッション

子どもの遊び場は減ったか

一年をとおして

自然が相手だった

堺町 渡辺幸一さん(40)

私の小学生時代は終戦直後の混乱期は過ぎたとはいえ、まだ物の豊富でない時だった。テレビも登場前で、しかも習字とかピアノ、ソロバン、学習塾などの習いものも流行していない時だったし、宿題などもあまり多くなかったから遊ぶ時間は、充分すぎるほどあった。学校から帰るとカバンを放り投げて家をとび出し、道路いっぱ



提言者 中沢 雅さん

たまたま、学校から早く帰ってきた息子が、することがなくうろうろしている。考えてみれば、最近子どもたちが呼び合い固まって遊んでいる姿をみかけることがあまりない。それぞれに塾通い、けい

いに使つての「陣取り合戦」近所の空地で「相撲」馬とび「麦畑やイモ畑で「かくれんぼ」と、日の暮れるまで遊びに熱中したものだ。休みともなれば、春はクモの一種の「きぼた」あかしを取ってきて友だちのものごとケンカさせて負けに「喜一憂し、夏は「クワガタ」「カブト虫」さがしに山中を駆けめぐり、秋は「しいの実」「しば栗」採り、冬は富士川の土手で「ソリすべり」と、一年中自然を相手の遊びにこと欠かなかった。今のようにテレビもなく、ゲー

工夫することが

今の子どもには少ない

小山 芦川道行さん(37)

ムウォッチや立派なおもちゃ、食べ物も少ない時代ではあったが、考えてみると、私は今の子どもたちより、ずっと幸せな時代を過ごしてきたような気がします。

日曜日になると、川へ友だちと連添って「釣り」に出かける——子どものものである。私たち昔の子どももよく釣りにいったものであつた。竹やぶから竹を切り出し、テ

あらゆる所が遊び場で、毎日毎日、隣近所の子どもを呼び合つては上級生や下級生が一緒にになり、ならんで順番を待ちながら、草っ原で石けりをしたり、ゴムとびをしたり、なわとびをしたりした思い出がある。もう夏休みも間近、長い休みに入るが、外で遊ぶ喜々とした子どもたちの声はあまり聞かれないような気がする。

今は「花一もんめ」と

「かごめかごめ」

相生町 篠田貴美子さん(13)

今の遊び 私たちが最近はじめた遊びは「花一もんめ」とか「かごめ かごめ」です。中学生になり先輩もたくさんいるので、ドッチボールやバレーボール、その他の遊びはできなくなつてしましました。だけど、みんな話となると、好きな人の話や悪口などはおもしろくもおかしくもないし、途中で話ごとまり、しらけてしまうのでなんとなく「花一もんめ」になつてしまします。前の私と比べ

8月のテーマ

わが家のゴミの分別法

先日の定例モニター会議の折町内を一周した。総面積の九〇割以上が山ノ こんなにも背に山をかかえた町なのかと、改めてビックリした。下平付近からの松野の眺め、農免道路からの木島地区の眺め、エリア付近からの岩淵地区の眺めと、まだまだ自然環境豊かな町であることを実感。最後に、ゴミ焼却場を見学した。最先端技術の導入とはいえ、一日十五時間、五十トのゴミを数人の職員で処理しているのには驚いた。本来ならば収集してきただまま炉に入れる物

るとぜんぜんちがいます。前というのは小学五年生のころだけど、名付けて「ボールよこどり戦争」というのをやっていました。男子と女子とに分かれて、何対何で一つのボールのとりあいをする遊びです。そして上級生だったけれども小学生だったので、運動場を走ったりころげたり、いろいろなことをして、鐘が鳴るまでずっと遊んでいました。この遊びが一番印象に残っています。でも中学生になった今は中学生生活を楽しく遊び、楽しく遊びたいと思います。

家業の手伝いや

子守りをしながら

坂下 望月ともゑさん(62)

子どもの遊び今昔——といつても、今は勉強やサークル活動に追われ、遊びの広場も必要なくなつていきます。また遊びもレジャーを楽しむ自転車で町に出てゲームやプラモデル、高級な玩具を買い求め、家の中で一人でテレビを見る

昔は子どもが多いかわりに、自転車に乗れる子どもも少なく、家業の手伝いや子守りをしながら、すべての場を遊び場として友だちと仲良く遊んだものです。夏ともなるとプールもなく、浮輪や水着などしやれたものもなく、手ぬぐい一枚持つて大川で泳いだものです。

たまの夏祭りには、少々の小遣をもらつて喜んだものです。そしてお正月には、父母のお手製のタコやコマ・羽子板・竹馬など、お粗末ながら思い出の数々です。また、トランプやカルタなど、こたつでの温もりも懐しく限らない遊びが一杯でした。

安心して遊べる

広場がほしい

本通り四 米山正紀くん(11)

今、ぼくたちはどんな遊びをしているのだろうか。一日おきにソフトの練習、他の日は水泳の練習とカバンを置くときすぐ出かけなければならない。今は金曜日に、一、二年生もいっしょにソフトの練習をしている。ほんの短かい時間だがいっしょにやる。その子どもたち

練習のない日は、家の前の食堂の駐車場でボール投げやバトミントンなどをするところもあるが、車が入つてくると使えなくなつてしまふ。小さい子どもがボール投げをしていると、道路にボールが飛

び出し、車を止めることもある。ぼくは、せまくてもいいから、みんなが安心して遊べる広場がほしい。そして、思い切りボール投げやバトミントンをして遊びたい。

道具はみんな手作りして、素材も自分でたたく。作る楽しみもあつたし、物も大切にしました。

思いきり遊べるのは

小学校低学年の時だけ

清水市 高岡絹江さん(8)

下の子の声が聞こえなくなつたと思つたら、畑のすみで土ボコリを立てながら穴を掘っている。その内、水を入れてドロドロになるだろうと思ひ、やめさせたいのをぐつとこらえながら「ホコリをたくさん吸うと病気になるよ」と一言。毎日毎日よくあきもせずドロ

だわらないが、昔と違い外で思いきり遊べるのは小学校も低学年の時だけで、大きくなれば勉強の時間が多くなり、遊んでいられなくなるんだからこそ、この短い期間思いきり遊べる場所を子どもたちに与えて欲しいと願います。



清水町 久保田豊子さん

- 私たちが主婦の心掛けで、新設機械の稼働率を一〇〇割に高めパッカー車が壮快に走る町作りに、町民一人ひとりが協力しなければと、工場で働く職員のみなさんに感謝しながら焼却場を後にしました。
- 8月号のテーマ わが家のゴミの分別法
- 対象者 どなたが投稿してもかまいません。
- 字数 四百字づつ原稿用紙に一枚以内。
- 締切り日 8月10日(火)まで
- 投稿先・問合せ先 富士川町役場・企画開発課 岩淵二一 番地
- 注意事項 匿名者の原稿は掲載いたしませんから、締切り日までに原稿用紙に必ず住所、氏名、年齢を記して投稿してください。掲載できないこともあります。

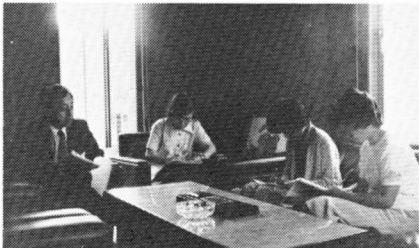
# ママさん記者の 役場訪問記

## ～ 出納室 ～

梅雨がどこかへ行き、真夏を思わせる太陽が輝く7月1日、私たちは役場出納室を訪問し、大久保収入役さんと齋藤資子係長さんのお二人に、窓から入る風もさわやかな中二階の応接室でお話をうかがいました。

それによると、出納室は収入役さん以下、女性職員二人と清水銀行富士川支店から派遣された女子行員一人の構成だそうです。それから出納室は収入役の事務組織のため「室」と呼ばれているとのことでした。この仕事は、一般家庭でいえば「財布を握った奥さん」というところで、大きな仕事から職員の使う鉛筆一本に至るまで、お金のことはすべてここで管理しています。毎日の現金収入は町内の三つの銀行と農業協同組合があつかい、支出はこれを総括する清水銀行富士川支店の小切手で支払いされていますが、役場への派遣行員も窓口払いをしてくれます。また、支払日は毎月第二・四水曜

日と定められています(工事金などは月末が多いので必要時に支払います)。一般商店の利用者はできるだけの支払日を守り、受付時間も役場勤務時間ではなく銀行時間(午前9時～午後3時)なので、注意してほしいとのことでした。さらに支払は月に約千八百件あり、これが正確に処理されているか「例月検査」といって、毎月一回、二名の監査委員が目を通してきます。この監査委員は、町会議員一名、民間人一名から成り、民間人は役場に詳しく、経理に明るく、人格人望の厚い人を町長が推せんし、議会にかけ決定するということですから、非常に名譽ある仕事だと思いました。現在は昭和56年度の決算中であり、例月検査には約一日、決算時には約十日も費やすそうです。ところで、町の財政状況は毎年二回、広報などによって、また役場正面向って左側の告示板にもそのつど掲示してありますので、ぜひ一見してほしいものです。



右から中沢・曾我両モニターと  
齋藤係長・大久保収入役

広報モニター 曾我久子

# 社会教育から

## 中・高生の諸君へ

中・高生の諸君、いよいよ夏休みに突入します。この休みは諸君にとつてどのような意味を持つているのでしょうか。

最近の新聞やその他の報道によれば、青少年の非行がクローズアップされ、社会的な問題として大きな波紋になりつつあります。これらの非行は、絶対多数の若者のほんの一握りかもしませんが、そうした一部の現象に対して、世間の大人も子どもも当然のことのようにマヒしてしまっていることに危惧を持つわけです。町の青少年健全育成委員会では、こうしたマヒ感から少しでも正しい目ざめを呼び起こさせようという意図を持って、町内の第一・第二中学校の生徒諸君に協力してもらい健全育成標語を募集しました。

その結果、校内選抜された四十二点の中から次の四点を横断幕作成標語として採用しました。

◎ちよつとした軽い気持ちで非行の芽

一 中一年 近藤 正弘  
◎気をつけよう服そうは非行のバロメーター  
一 中二年 野中 洋幸

◎確かめようこれでもいいのか今のほく 二 中一年 高岡奈津美  
◎忘れるなたえる心と強い意志  
二 中三年 小林千賀子

これらの標語と応募作品については、この一年間、町の青少年健全育成活動へ活用していきます。

中・高生の諸君、諸君の持つあふれんばかりの「つっぱり精神」のエネルギーを、軽薄な自己の興味なり欲求を満たすだけに消化せず自らを成長させる糧になる方面へと活用して欲しいと思います。

つっぱりは、君たち若者のだれもが持つ特権です。その特権を生かすのも諸君自身、殺すのも諸君自身の選択に任せられているのです。これらの時代を自らの力で生きぬかねばならない宿命をしっかりと受けとめ、目の前へ出現する単なる流行や、無価値な事象に惑わされることなく、自らを鍛えるために情熱を燃やして欲しいと思います。

◎部活動の苦しさにうち勝つ  
◎地道に勉学にうち込む  
◎友人と心を分かち合う  
こちらに向けて、諸君の「つっぱり精神」をぶつけて欲しいと願っています。

# 電気も夏ばい

## 無駄を省き効率よく使おう

電気は、私たちの暮らしに一日たりとも欠かせない、身近で便利なエネルギーです。

家庭では、照明や冷暖房をはじめ、洗濯、そうじ、食品の冷蔵など、電気はスイッチ一つでやってのけます。私たちが快適で便利な日常生活を送ることが出来るのも電気というエネルギーに負うところが大きいといえます。

ところで、電気の約七〇割は火力発電所でつくられており、その燃料の約七〇割は石油です。つまり、石油の九九・八割を海外からの輸入に頼るわが国の場合、日常私たちが使う電気もその半分以上を輸入していることになりま

石油を節約していることになるのです。

電気の使用量(電力消費量)は一年のうちでは季節によって、また、一日のうちでは昼間と夜間とで、それぞれ異なります。年間を通じてみますと、冷暖房機器の普及によって、夏と冬に多くの電気を使います。なかでも夏場の8月9月がピークで、その三分の一はクーラーの使用によるものとされています。

一方、一日のうちで最も多くの電気を使う時間帯は、気温の上がる夏の午後2時前後で、ちょうどクーラーがフル回転する時刻に当たります。これに、高校野球のテレビ観戦が重なる、8月中旬の午後2時は、日本列島の電力消費

量はピークに達します。クーラーの涼風の中で高校野球を楽しむ、その一方で、わが国の発電所はパンク寸前に追い込まれるのです。電気は、ピーク時に備えてふだんから蓄えておくという事はできません。また、足りないからといって電気そのものを輸入するわけにもいきません。無駄を省いた効率的な電気の使い方を心掛けましょう。

### ◎クーラーの効率的な使い方

○放熱部は、北側の風通しのよい所に取付ける。西側や南側に置く時は日よけをつける。

○室内への日差しを断つるためにはブラインドやカーテンが効果的。

○冷えすぎは、健康によくないばかりか、電力の無駄遣いです。二十八度を目安に温度調節をする。温度が低くなれば「送風」だけでも快適で、電力消費も少なくてすむ。



お母さんオママ  
おあきくなつたわ  
カエルにならんぞよ

おあきくなつたわ  
カエルの川はあきすの

おあきくなつたわ  
カエルの川はあきすの

オママかわいそう  
かわいそうだよ

# 「資料・東海地震」連載にあたって

東大地震研・恒石幸正

今月号から連載で、東京大学地質研究所の恒石幸正先生に、私たちに一番関心のある「東海大地震」に関するお話をさせていただくことになりました。これは、先生のお話を私たちの地震対策に生かしていこうとの目的で企画したものです。

東海地震による被害を最小限にとどめるためには何をすればよいのかという課題に対して、国・県・町・住民はそれぞれの分野でとりくんでいます。5月号の広報で詳しくみなさんに紹介された富士川断層の連日監視もその一環といえます。私は観測にご協力いただいている富士川町のみならず、東海地震について一層の理解をもっていた

だきたいという想いから「資料・東海地震」というタイトルで、次号からしばらくの間、執筆させていただくことに致しました。

目的は地震パニックを防ぐことにあります。大地震のような突発的自然災害に見舞われた時、人間は恐怖のあまり異常な心理状態におちいり、とんでも

ない行動にははいるものです。「冷静に行動してください」と、いくら放送してもおさまるものではありません。時には為政者までがパニックにまきこまれてしまうものです。

大正12年の関東大地震では、十万人の死者が出ました。東京市内の死者は六万人ですが、家屋がつぶれて圧死した人はわずかに二十人、他は焼死者でした。ところが、平凡社百科事典によれば圧死者の三倍にあたる罪なき朝鮮人が、自警団に組織された住民の手によって虐殺されています。パニックを防止するためには、日ごろから地震に関する正確な知識をもち、適切な判断力を養っておくほかはありません。住民五十人に一人の割合で冷静な指導者がいたならば、無用の混乱は避けられるはず

です。

学問は「事実」と「推論」から成り立っています。観測事実が不足している場合には「仮説」が登場しますが、仮説が一人歩きをするようになると、もはや科学とはいえません。ここでは「事実」だけをみなさんに紹介していくつもりです。

# 戸籍の窓

57・6・1～6・30届出

(敬称略)

## おめでた

東町一	井上 雅博	茂樹	長男
南町二	佐藤 一星	光利	三男
〃	池上 志保	佳典	長女
富士見町久保田和美	和作	長女	
八幡町 望月 隆良	候利	長男	
〃	小林 夏海	均	長女
富士松野望月 真志	栄二	長男	
旭町 齋藤 徹 一雄	二男	清水町 石川 晃久	進 三男
〃	宇佐美仁美	昇	三女

## 一里塚



富士川町の役場に勤務してから早いもので、もう三カ月が過ぎました。この三カ月を振り返ってみると、自分自身のことと精一杯で、あまり回りを振り返る余裕がなかったような気がする。そして、ただ自分に与えられた仕事を無我夢中で消化していくだけだったようだ。

この機会に、社会人としての自分を見つめ直してみると、私の今の自分だけが不在だったのではないかと思う。自分自身が職場の雰囲気に適応していくために、知らず知らずのうちに自分の個性を棄

最近の社会をのぞいてみると、

自分自身の主義主張を持たずに、自分の都合のいいように立場を変え、考えを変えていく人間が増えているのではないだろうか。換言すれば、利己主義でいいかげんなずるい人間が増えてきていると思われる。

最後になったが、社会人としての私の抱負を述べると――  
 ◎いろいろな人とのコミュニケーションを活発にして、人間性を高めていく  
 ◎自分自身の主義主張を持ち、それを実践していく  
 ◎積極的に仕事に取り組み、その仕事に責任を持ち、いいかげんな仕事をしないようにする  
 ――ということになります。

芦川

## かなしみ

清水町 和泉 藍子 一吉 長女  
 大北町 若松 勇太 仁 二男

## 町への寄付金

(敬称略)

区名	氏名	年齢
相生町	堤 俊之輔	七一
坂下	齋藤 たみ	八三
旭町	齋藤 義元	八四
堺町	丸山 こう	七七
本通一	篠根 啓一	六四
本通二	西村 岩男	六一
東町二	蓮池 滋子	五三
清水町	天野登代子	四八

## 善意銀行へ寄付

57・6・1～6・30

三十万円	社会福祉事業費へ	本通り三	西村 公宏
五万円	東町二	天野 政美	
五万円	本通り一	篠根 俊紀	
竹ぼうき二百五十本	平清水	佐野 源五	
プラモデル(十万円相当)	旭町	野田 賢造	

## 編集後記

今年のつゆは「空つゆ」で、つゆ明け宣言が出されると思っていたら、最後になって雨が続く。みなさんも体調に注意を。

## おかあさんの知恵袋

5月30日「関東地方環境美化運動の日」の美化キャンペーン「五三〇(ゴミゼロ)運動」に参加し町内八カ所を重点的に空缶・空ビンの回収を行うとともに、駅前において空缶持ち帰り運動のためのビニール袋を配布し、意識の高揚をはかりました。

空缶については、指定地区を回収したところ総数三千五百五十六個。特に松野側馬坂やパイパス入口の二千三百個には驚きました。車の中に入れてあったであろう三十個も入ったビニール袋もそのままゴツリ「自分のゴミは自分で持ち帰りましょう」の大きな看板が小さく感じました。また大北パイパスには、ワンカップの空ビンやドリンク剤の空ビン、コーヒークの空缶が最も多く、飲酒運転・過労運転・いねわり運転を思わせるようなドライバーのマナーに注意を促したい結果でした。さらに、北松野の県道富士川一身延線沿いの紙くずは、大部分が子どもの食べたアイスクリームの紙、これも家庭での躰(しつけ)に一役お願いしたいし、私たち大人のタバコの空箱も大人の自覚に訴えたいと思います。きれいな町によい子が育つと。



〈文協俳句会〉

宮町 増井 冬木  
 築の漁教わり教へ夏深し  
 夏帽子呼べば笹の打ち返す  
 大北町 天野 たま  
 草取りて氏子合掌して別る  
 長旅もさほど疲れず菜種梅雨  
 南町 法月 幸子  
 山上涼し出土勾玉掌に光り  
 サーフアの濡れて火を恋ふ浜立夏  
 南町 影島 智子  
 五味五色五法説説く僧夏盛る  
 さからはず生くるかしこ遠郭公  
 南町 木伏 八子  
 田の草を掻ける手の元水はしやぐ  
 旭町 笠井みち子  
 山削らる慈悲心鳥はいづこにて  
 清水町 宇佐美裕子  
 蛙に目借られて己れ見失しなう  
 南町 宇佐美幸子  
 氣だるさの無口や梅雨の中だるみ  
 南町 田辺つぎ子  
 朝富士を巻く帯雲や遠郭公  
 南町 上野みつ子  
 ざわめきの去り葉桜の輝けり  
 南町 上野 君江  
 祖々よりの梅干の壺塩にじむ  
 本通り 古木喜久恵  
 くちなしの匂ひ拡ぐる夕の雨  
 南町 望月 洋子  
 桐の花法華経とどく天に在り